

松沼博久投手 プロ1勝目・西武球団初勝利 ウイニングボール

野球殿堂博物館では、2021年6月、「埼玉西武ライオンズ 特集展示 1980～90年代黄金期」を開催しました。本展は2012年から毎年、東京ドームでの各球団の試合開催日を中心に開催した「球団デー」を充実させ再構成したもので、シーズン中、数年に渡り、ひと月ずつ、球団ごとに開催する予定で、西武球団が最初の展示となりました。1980～90年代前半の黄金期の中心選手のバット、グラブ、スパイク、ユニホームやファンブック、優勝記念乗車券などを展示しました。

今回ご紹介するのは、日本プロ野球

OBクラブの松沼博久副理事長所蔵の、ご自身のプロ1勝目で西武球団初勝利のウイニングボールです。6月2日のセ・パ交流戦、巨人対西武の試合前に当館を訪れた松沼博久氏が、当日の文化放送ライオンズナイターで、このウイニングボールが自宅にあることを紹介、これを受け、本展での展示を寺島啓太アナウンサーを通じて打診したところご快諾いただき、同5日にご持参いただきました。

1979年、西武ライオンズの初めてのシーズン、西武は開幕から2分けを挟んで12連敗(日本タイ記録)。そして迎え

た4月24日の南海戦、ルーキーの松沼博久投手が4戦目の登板。西武はミューサー選手のタイムリーなどで4点を先行、松沼投手は伸びのある速球と鋭いシンカーで4回まで無安打、9回途中127球を投げ、失点2(自責1)の快投で勝利投手となりました。翌日の報知新聞は、ビクトリー・ロードを初めて登る選手たちの高揚した様子や、「二万観衆の拍手と“松沼コール”はまるで優勝騒ぎの熱狂」と初勝利の興奮を伝えています。松沼投手はこの年16勝を挙げ新人王を受賞。弟の雅之投手とともに黄金期前半の主力を担いました。

本展は6月30日(水)で終了しましたが、会期中多くのファンの皆様にご見学いただきました。次回特集展示は、9月を予定しています。

公益財団法人 野球殿堂博物館
学芸員 関口貴広

